

「過労死等防止対策推進シンポジウム」を開催しました

徳島労働局は、令和4年11月に実施した「過重労働解消キャンペーン」の一環として、令和4年11月17日（木）に、徳島大学常三島キャンパスにある地域連携大ホール（けやきホール）において「過労死等防止対策推進シンポジウム」を開催しました。

シンポジウムでは、徳島労働局小宮山労働基準部長から主催者を代表して挨拶し、五十嵐監督課長から過労死等防止対策、徳島労働局管内の過重労働対策の実施状況などについて報告を行ったほか、記者・ライターの牧内昇平氏より「取材から見てきた過労死の実態」と題した基調講演をいただきました。



（主催者挨拶）徳島労働局小宮山労働基準部長



（労働局報告）五十嵐監督課長

基調講演

牧内氏からは、50人を超える過労死遺族を取材した経験をもとに、「喪失の痛みを知ることが大事であり、それを共有することが過労死防止の第一歩であること。過労死を「他人事」から「自分事」にすること。過労死は誰にでも起こる。自分に起こりえることと常に考えること。」、若者に向けては「知識と仲間が大切であること。仕事がつらい時は、働いた時間などのメモをする、少しでも休息をとるなどの対処をすること。」と訴え、最後に「その仕事、命より大切ですか？命より大事な仕事はない。」と締めくくりました。



（基調講演）牧内昇平氏

過労死遺族の声

過労死遺族の声として、東京過労死を考える家族の会、医師の働き方を考える会共同代表の中原のり子さんから講演いただきました。



(過労死遺族の声) 中原のり子さん

中原さんは「二十数年前、小児科医である夫が過労自殺で亡くなった。医師は、一般的にはセレブなイメージがあるかもしれないが、過労で亡くなった方の遺書などでは、「ゼイタクはிரらない、普通の人間の生活がしたい。」「医師になんかなるんじゃないか。」とあるように過酷な労働実態がある。人を救うには、まず自分が健康でなければならないが、健康の確保は事業所の義務である。頑張る人が頑張れるようにするためには適切な労務管理が必要。

過労事故、過労自殺は増加している。若い命を奪う異常な長時間労働がいまだに存在している。「真の働き方改革」が実現することを願う。」と話されました。

シンポジウムには別会場を含め、学生、一般併せて約 200 名の参加があり、テレビ・新聞でも報道されました。

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

徳島会場

毎年11月は「過労死等防止啓発月間」です。

過労死等 防止対策推進 シンポジウム

過労死をゼロにし、健康で充実して働き続けることのできる社会へ

近年、働き過ぎやパワーハラスメント等の労働問題によって多くの方の辛い心や身の健康が損なわれ深刻な社会問題となっています。本シンポジウムでは有識者や過労死で亡くなった方のご遺族にもご意見をいただき、過労死等の現状や課題、防止対策について探ります。

参加無料
事前申込

2022年11月17日(木)
13:00~15:30 (受付12:30~)

徳島大学 地域連携プラザ 2F
地域連携大ホール (けやきホール)
(徳島市南瓦三丁目1番地)

基調講演
「取材から見えてきた
過労死の実態」
記者・ライター 牧内 昇平 氏

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行い実施いたします。感染拡大の状況により、開催方法が変更になる場合や、参加人数を制限するなど、規模を縮小して実施する場合があります。最新の情報は特設ホームページにてご確認ください。なお、参加には事前申し込みが必要です。

過労死等防止対策推進シンポジウム

主催：厚生労働省 後援：徳島県、徳島市
協力：過労死等防止対策推進全国センター、全国過労死を考える家族の会、過労死弁護団全国連絡会
徳島弁護士会、連合徳島、徳島労連

二次元バーコードを
読み込んでください。